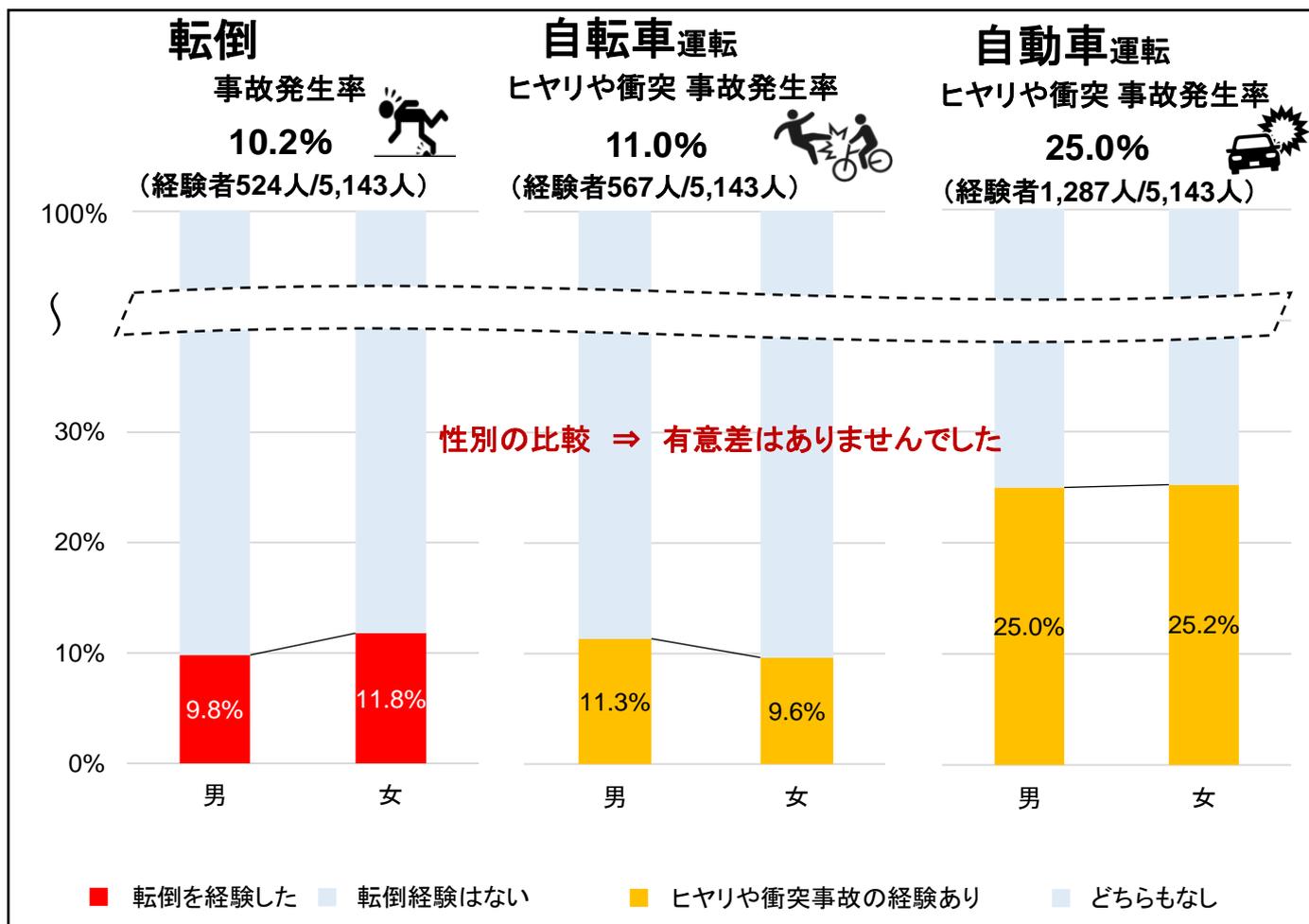


## 移動に伴う日常生活の事故

2023.12.18

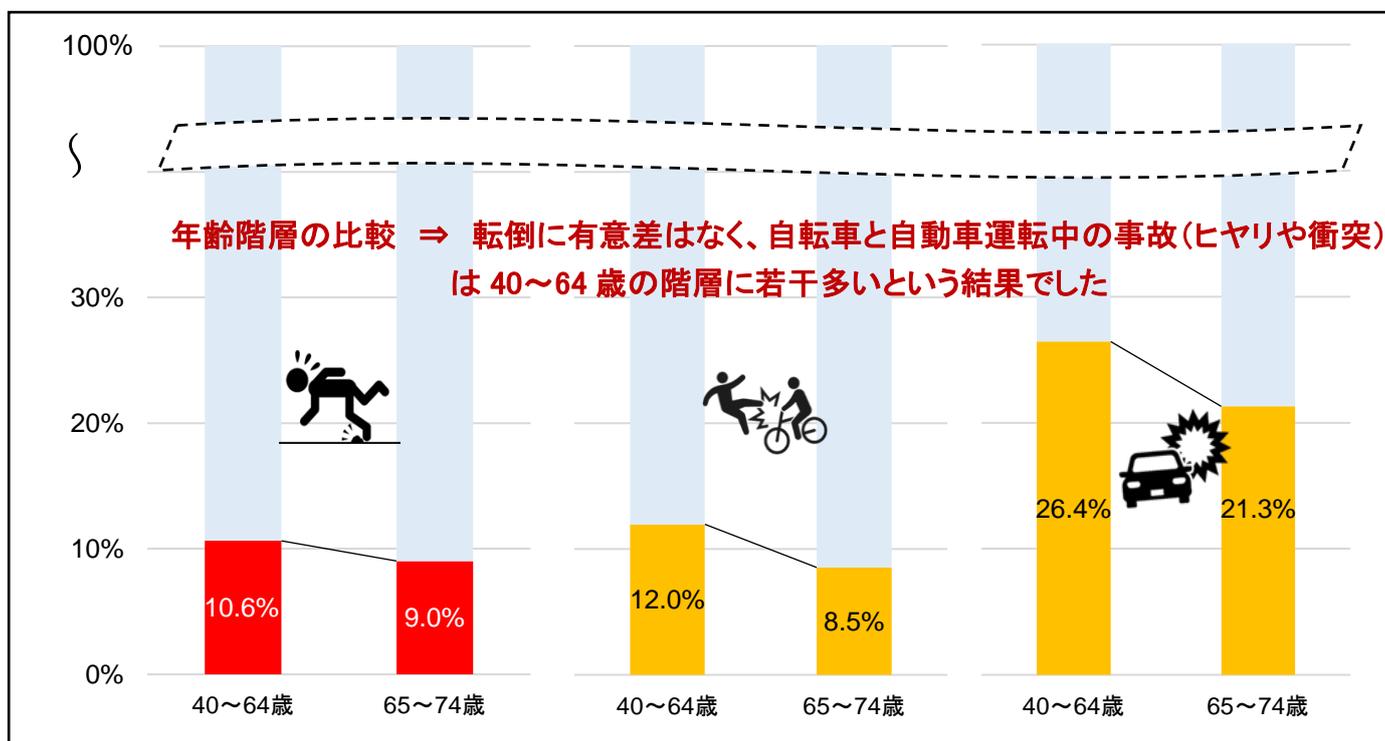
- これまでに、運動器の健康と日常生活における事故との関連性やコロナ禍における運動器の機能と健康感の変化について報告してきました。
- 日常生活での歩行中の転倒や自転車または自動車運転中のヒヤリや衝突といった「移動に伴う日常生活の事故」は、ヒトの内的要因（運動器を含めた身体機能など）と、外的要因（環境など）が重なって生じると考えますが、これまでの検討から、共通して“握力が弱い”と感じているヒトに生じている傾向がわかってきました。
- これら「移動に伴う日常生活の事故」には“握力が弱い”と感じる以外にも共通するヒトの内的要因があるのではないのでしょうか。共通する要因があるならば、これらの事故同士は関連性があるかもしれません。今回は、事故同士の関連性について報告します。

### ■ 「移動に伴う日常生活の事故」の経験と性別と年齢階層の比較



※ 対象は、40～74歳の、自転車に乗り、自動車を運転する、男女5,143人である（2020年12月に実施したインターネット調査の回答から継続的に自転車と自動車を運転しているヒトを抽出した）で、2020年の1年間に於ける「転倒 事故発生率」および自転車運転中と自動車運転中の「ヒヤリや衝突 事故発生率」を算出した。

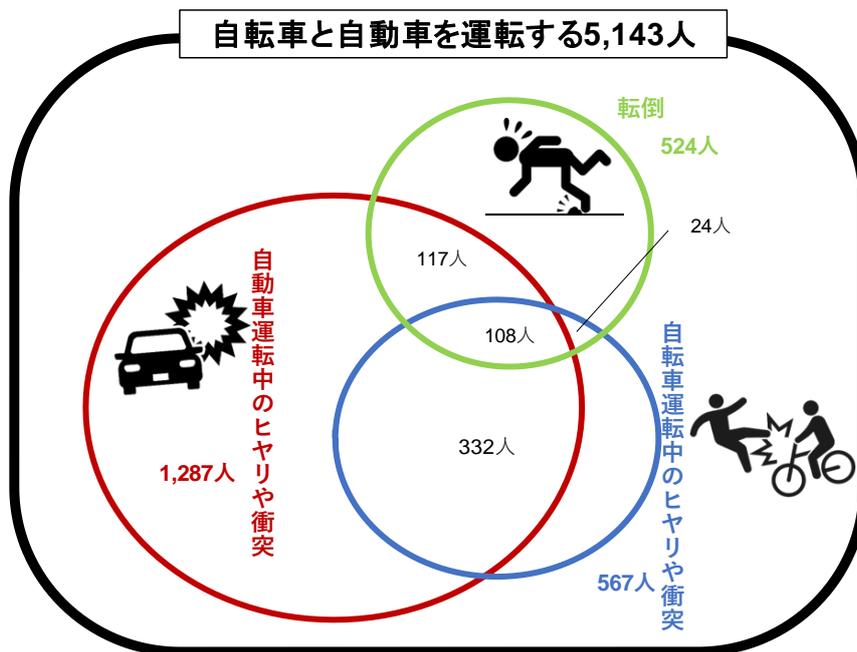
## 移動に伴う日常生活の事故



### ■ 「移動に伴う日常生活の事故」同士の関連性

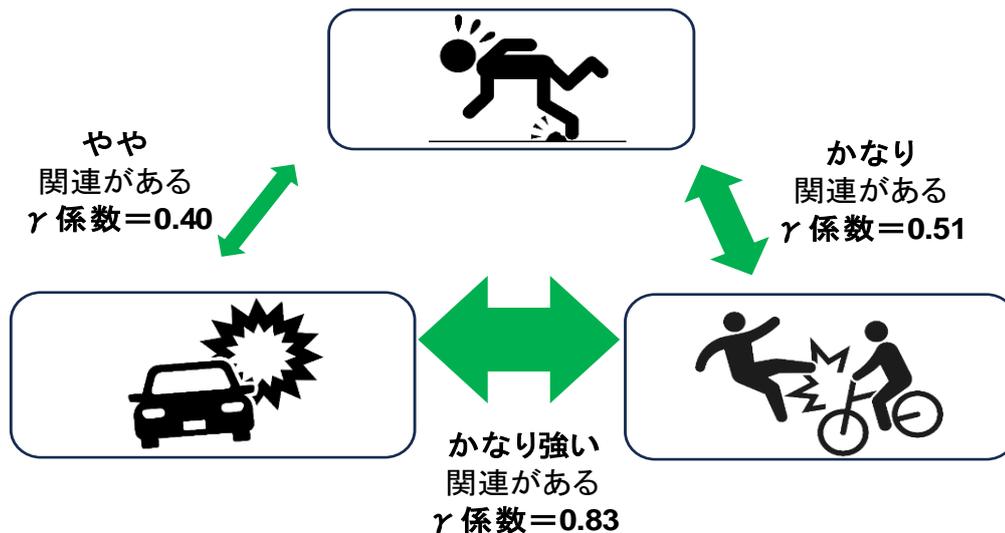
移動に伴う日常生活の事故として、1年間に転倒や自転車運転中もしくは自動車運転中の事故(ヒヤリや衝突)のいずれかを経験したヒトは、1,689人(32.8%)いました。

このうち全てを経験したヒトは108人(2.1%)、自転車と自動車運転中の事故(ヒヤリや衝突)の両方を経験したヒトは440(332+108)人(8.6%)でした。



## 移動に伴う日常生活の事故

これらの移動に伴う日常生活の事故同士の関連性を統計学的に計算してみると、それぞれの関連性が見えてきました。



※ 事故同士の関連性の指標としてガンマ係数 ( $\gamma$  係数) を算出した。 $\gamma$  係数は、 $l \times m$  の分割表でその変数間の関連性の指標として求められる係数である。 $\gamma$  の値は完全な正の関連がある場合は+1.0、完全な負の関連がある場合には-1.0をとる。

$\gamma$  係数の解釈の目安

- ・0~±0.2 →ほとんど無し
- ・±0.2~0.4 →やや関連がある
- ・±0.4~0.7 →かなり関連がある
- ・±0.7~1.0 →かなり強い関連がある

**Point**

- ・ 自転車と自動車を運転するヒト達の約 3 割強が 1 年間に「移動に伴う日常生活の事故」を経験していました。
- ・ 転倒や自転車もしくは自動車運転中の事故(ヒヤリや衝突)は性別に差はないものの、運転中のこれらの事故は 40~64 歳の年齢階層に若干多く発生していました。
- ・ 「移動に伴う日常生活の事故」の発生はそれぞれ関連性がありました。とりわけ自転車または自動車運転中の事故(ヒヤリや衝突)を経験しているヒトは、他の運転時でも同様な事が生じる可能性が特に高いと言えます。